
資料 1：報告資料

2（1）前回意見の整理

1-1 第7回委員会意見の整理

分類	意見の概要
導入機能	<p>【窓口機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 行政手続きのデジタル化も進めながら、対面での行政手続きが必要な人へも配慮が必要である。(関委員) <p>【執務環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 空調や照明の設備が更新されておらず、現在は職員にとっても来庁者にとっても執務環境が悪い状況である。(関委員) □ コラボスペース等は、清水区役所の職員の働き方にどの程度適合しているのか見極めるべき。行政の業務上、指揮系統に沿ったもののほうがよい。また、窓口に来た人が担当者の居場所がわかりづらくなるのも問題である。(牛場委員) □ 改修工事に合わせて、働き方や公共サービスのあり方そのものを問い直し、執務室のあり方やフリーアドレスの要否も含めて、あり方に応じた規模やレイアウトを検討することが必要。 また、現市役所内でも、実態が伴っていないフリーアドレスの運用も見られるため、運用も含めて行政内部で議論し、ふさわしいオフィス環境を整えてもらいたい。(恒川委員長) □ 清水庁舎の職員数は約1千人程度で、庁舎面積が約2万㎡であれば、一人当たり20㎡程度になる。(民間オフィスと庁舎では必要諸室が異なるため、単純に比較はできないが)民間オフィスの場合一人当たり10㎡程度以下のため、オフィスとしては十分に広い。さらにデジタル化によって、ゆとりが大きくなるため、今よりも小さくなることはない。一方で、各部門がどの程度面積を利用するかは検討する必要がある。(恒川委員長) <p>【防災拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 現庁舎は津波浸水エリアの中にあるため、庁舎の災害後の役割において平時業務を含むBCPの考えは不要かもしれない。津波を受けた後、周辺に深刻な被害が残る状況で、ここで区役所の通常業務を行うのは効率的ではない。(加藤委員) <p>【まちづくり拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ (新庁舎を建設する計画ではなくなったことから)まちづくり拠点の優先順位として、現位置では市民や人と人のつながりの方が重視されるべき項目である。(黒瀬委員) □ 喫茶・売店の運営主体が民間であれば、様々な検討ができるようになる。(牛場委員) □ 焼津市役所のように展望のよい食堂などができるとよい。(石垣委員) <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 導入機能の整理では、網羅的になっているため優先順位をつけるべき。今後、庁舎の機能として窓口を検討する際、各窓口部門の課題やニーズ、業務プロセスの向上を通じたサービスの向上などのステップの中で、優先順位をつけられる。(小豆川委員) □ 改修で新築並みの機能を求めると、新築よりコストが高くなることも十分にあるため、コストについては上限を設定する必要がある。理想はあるが、20年程度の使用を前提とした改修ということで、全ては実現できない。(加藤委員)

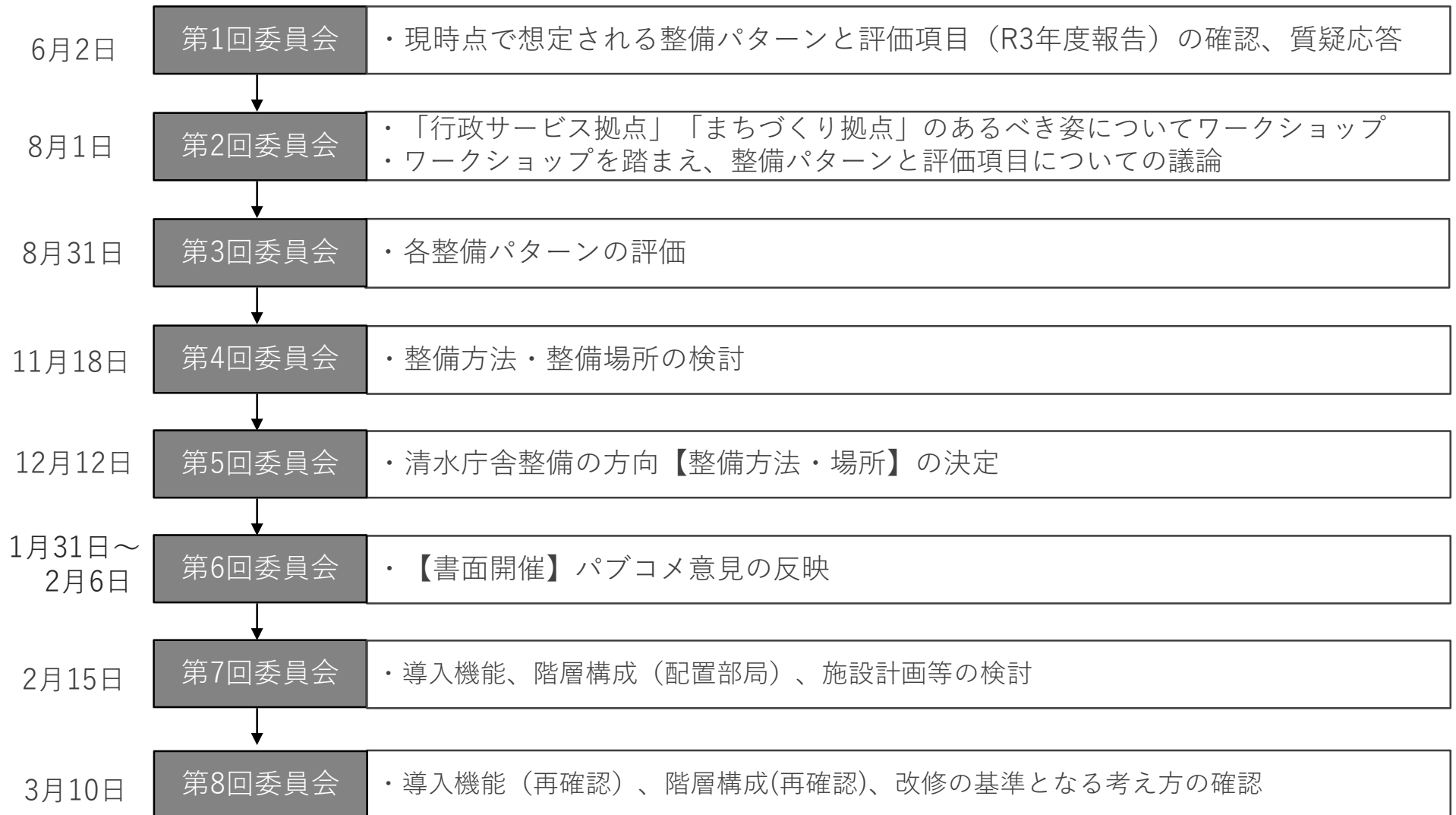
1-2 第7回委員会意見の整理

分類	意見の概要	備考
階層構成	<p>【窓口、機械室の配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 津波の可能性が高い1階に身体が不自由な人向けの窓口を残すかどうかといった議論は、第三次診断を経なくてもできる。(黒瀬委員) □ 2階以上で窓口をとれるのであれば、同じく機械室も地下に配置しないほうがよい。 ただし、2階へ行くのに不自由な方もいるため、エスカレーターを作ることがよい。エスカレーター設置に費用がいくらかかるのかを踏まえて検討ができればよい。(田宮委員) □ 2階に区役所機能を持っていく方がよい。災害や津波の被害が起きるリスクは避けたほうがよい。 エスカレーター設置のコストは、設置有無の比較検討を行ってもよい。(石垣委員) □ 地上部分を1m程度高くして、窓口業務ができる中二階をつくることも想定される。(堀川委員) □ 機械室は重要な部分のため、地下には置かないで上層階に持って行った方がよい。(堀川委員) □ 機械室については、災害等の浸水に備えたものとして機能が果たせるかどうか考え、少しでも不安があれば上層階に持っていく必要がある。(石垣委員) □ 機械室をふれあいホールに持っていくことだけはやめてほしい。(堀川委員) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 災害時に市民の方が1、2日過ごせるような場所を確保するため、減築はあり得ない。(石垣委員) □ 1階部分の対津波性能として1階をピロティ形式にせず構造壁形式にすることで問題ないかという点については、最終的には第三次診断の結果で判断するものである。前の計画でピロティであったためピロティにするというわけでもなく、現時点で構造壁形式にするということも決める必要はない。(恒川委員長) □ 3年後の令和7年度までに行政サービスがデジタル化されるが、改修工事への着手が令和9年予定であれば、デジタル化の方針検討と同時並行で、部署の配置や階層構成を考えることができる。(堀川委員) 	

1-3 第7回委員会意見の整理

分類	意見の概要	備考
清水庁舎 以外の機能	<p>【行政サービスのデジタル化】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 清水区の一つの特徴である生涯学習交流館で証明書の発行ができるようになれば、庁舎のスリム化が図れる。(石垣委員) □ 負担軽減に配慮し利用しやすい窓口と同時に、庁舎に来なくてもできることを増やすことを市の大きな方針として持ってほしい。(黒瀬委員) <p>【防災対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 防災対策は清水庁舎への対策だけでは不十分であり、浸水リスクが低いところにバックアップ機能があることがよい。バックアップ機能があるところに業務を円滑に移行できることや、バックアップ機能からどうやって浸水したエリアにサービスを上げられるかが重要。(黒瀬委員) □ 区役所が水害や地震の防災拠点や災害対策本部の機能を果たせるようにすべき。(石垣委員) 	
市への 確認事項	<p>【導入機能の特徴付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 行政サービス拠点や防災拠点、まちづくり拠点とあるが、このコンセプトのもとに、各機能において目玉をつくり、方針をまとめ、優先順位をつけて特徴を抽出するとよい。(小豆川委員) <p>【減築する場合の組織配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 区民対応がある部門は庁舎に残す必要がある。 一方で、区民対応の無い部署が近隣のビルに移動しても業務上の問題はない。ただし、検討委員会で決めづらいことでもあり、市からこの部門であれば近隣ビルでも問題ないと提案してほしい。優先順位として、区役所の中でも保健所や市税事務所など区民が頻繁にくる事務所は区役所に残した方がよい(黒瀬委員) <p>【建築設備の配置・更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 建築設備の配置や更新は、改修の費用や庁舎の防災性能の検討に大きな影響を与えることが予想される。来年度、耐震性能の第三次診断と併せて、可能な範囲で建築設備の配置や更新についても調査を検討いただけないか。(黒瀬委員) 	

2 清水庁舎整備検討委員会の検討経過



※ 現時点での想定する検討スケジュールであり、今後、委員のみなさまの意見等により変更する可能性があります。